

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	おはなのいえ木場えこる		
○保護者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和7年 4月 18日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 21
○従業者評価実施期間	令和7年 4月 1日		～ 令和7年 4月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 5月 19日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	放課後等デイサービスの『本人支援』において、子どもの支援に必要な項目が設定され、具体的な支援設定がされている。	家庭に近い環境での支援を行うことにより、家庭へ帰ってからの般化が出来るように取り組んでいます。清掃においては、日々の子ども達の様子を伺いながら、色々な清掃場所を担当し、最終的にどこでも清掃出来るように支援しています。家事スキルはおはなのいえのコンセプトです。どこでも必要とされるスキル強化に努めてまいります。	子ども達としっかりと話し合い、職員間でも共有し、ご家庭と共有しながら、子ども達の成長を目指して取り組んでいます。
2	生活空間は清潔で、子どもたちが心地よく過ごせるものとなっている。	構造化を日頃より意識して支援しております。 また、時間を決めて安心して落ち着いた環境の中で活動が遂行できるように、子どもたちの視線wを考え活動に取り組む事が出来るように工夫しています。	子どもたちが、数ある支援の中でさせられているのではなく、環境から成功体験に導けるように、いつの間にか『できた』が増えるように職員のスキルも高めていきたいと思っています。
3	支援内容についての詳しい説明がある	おはなのいえ木場えこるは、子ども達の学年の幅も広く、上級生がお手本となり思いやりを持って下級生に接してくれているお陰で、縦の関係も自然と身につきます。 元気の良い子ども達が多く、子ども達もパワーが溢れているのも強みの一つです。 学年の幅が広いからこそ、コミュニケーション方法の学びや、子ども同士の模倣、自分で考え行動し、成功体験を積み重ねていくことが出来るように工夫しています。	子ども達が、楽しみながら、経験を通して学んでいくことが出来るように、職員も子ども達のパワーに負けないよう、研修等を重ねていく事が出来るように取り組んでいきます。また支援の中には SST (ソーシャルスキルトレーニング) 認知力向上のためのトレーニングをプログラムの中に取り入れています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の資質向上のための研修の機会や法人内での研修がある	・今回の報酬改定からのさらなる支援の質については、日頃の意識改革も必要になっていると感じている。	法人内の研修は、月に一回実施しているが個々での自己研鑽についても聞いていきたい。 実際には、児童来所の前に各事業所内で時間を確保している。法人内研修内容についても、内容について検討していく。
2	父母の会や、きょうだい同士の支援についてわからないところがある。	・父母の会においては、主に月に一回の保護者会からの広がりを理想としているが、大勢の集まりはなかなか実現できない。	・きょうだい同士の関りにおいても積極的にには行っておりませんが、ぜひ保護者会においてその機会を多く活用して欲しいと思っています。
3	児童クラブ、地域交流の機会があるか。	職員の評価も“いいえ”が多いです。実際の課題解決に関しましては右記欄に示します。	積極的な関与はございません。おはなのいえに通うお子さまのプライドや学童期、青年期の心の葛藤に向き合うための配慮だと感じています。ゼロの状況はありませんが、控えたい時期には控えます。積極的な活動が子どもたちにとってメリットになる時期には、様々な活動参加を行います。